

施策番号	1341		
施策名	歩く魅力のあるまちづくり		
概要	まちの美化，自然・歴史的な景観の保全，市街地の町並み整備，道路のバリアフリー化に取り組み，安全快適で歩く魅力のあるまちづくりを推進する。		
担当局	建設局	共管局	都市計画局
上位政策	134 歩いて楽しいまちをつくる		

施策の評価

1 客観指標評価

	17年度	18年度	19年度評価				
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 歩道の整備延長(m)	e	e	870	1370	2984	45.9%	d
2 放置自転車の台数(台)	b	b	8391	7282	6880	94.5%	b
3 (準)道路のバリアフリー化計画の実施済地区数(地区)	a	a	6	8	2地区増	100.0%	a
4 バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数の割合(%)	b	c	36.1	44.7	44.7	100.0%	b
5 景観重要建造物件数(件)	-	-	3	20	20	100.0%	a
6 -	-	-	-	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-	-	-	-
	c	c	客観指標総合評価				b

2 市民生活実感評価

設問	京都市は，まちの美しさや賑わいなどにより，歩いて楽しいまちである。					
回答	17		18		19	
	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
a: そう思う	135	23.5%	127	24.2%	136	28.3%
b: どちらかというと思う	235	40.9%	225	42.9%	175	36.4%
c: どちらとも言えない	121	21.1%	104	19.8%	93	19.3%
d: どちらかというと思わない	48	8.4%	37	7.1%	43	8.9%
e: そう思わない	35	6.1%	31	5.9%	34	7.1%
有効回答数	574		524		481	
市民生活実感評価	b		b		b	



* この評価は，毎年5月頃実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

3 総合評価（客観指標総合評価＋市民生活実感評価）

	17	18	19
客観指標総合評価	c	c	b
市民生活実感評価	b	b	b
総合評価	B	B	B
重み付け	(理由)		
<input type="checkbox"/> 客観指標	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	この施策は、市民生活の充実感及び満足感を高めることが目的であるので、市民生活実感評価を重視する。	

4 原因分析・今後の方向性

総合評価は昨年度に引き続き、B評価となった。客観指標総合評価については、「歩道の整備延長」がe評価からd評価、「バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数」がc評価からb評価になったことや新規指標の「景観重要建造物件数」がa評価となったことが大きな理由であると考えられる。

本市では、歩いて楽しい「歩くまち・京都」の実現を目指し、「まちのバリアフリー化の推進」などの地道な取組を進めてきた結果、客観指標総合評価の伸びに繋がってきている。

一方、市民の生活実感については、平成15年度からb評価を維持しているが、施策の目的から考えると、市民の生活実感は大変重要であり、市民の目から見れば不十分な点も残されていると考えられる。

今後とも、安全・快適に歩くことができる環境を維持するため、取組を推進していく。

(参考) この施策実現のための主な事務事業

	事業名	18年度予算 (千円)*	19年度予算 (千円)*	18年度事務事業評価に おける今後の方向性	担当部・課
	1 歴史街道計画の推進	909	909	現状のまま継続等	都市計画局交通政策室
	2 交通施設バリアフリー化設備整備費補助	95,024	106,009	現状のまま継続等	都市計画局交通政策室
	3 交通バリアフリー基本構想策定業務	41,322	43,222	現状のまま継続等	都市計画局交通政策室
	4 看板等路上物件適正化事業	62,341	55,988	現状のまま継続等	建設局道路部道路管理課
	5 通行支障柱移設	89,176	89,176	現状のまま継続等	建設局道路部道路管理課
	6 電線類地中化	1,992,690	1,568,140	現状のまま継続等	建設局道路部道路維持課
	7 交通安全施設等整備	1,451,776	1,252,176	現状のまま継続等	建設局道路部道路維持課
(従)	8 公衆便所整備	50,575	29,305	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部まち美化推進課
(従)	9 快適トイレのモデル導入	27,309	29,645	現状のまま継続等	環境局循環型社会推進部まち美化推進課
(従)	10 「世界一美しいまち・京都」の推進	119,473	83,412	効率化等による見直し	環境局循環型社会推進部循環企画課、まち美化推進課
(従)	11 放置自転車等対策	404,894	512,935	充実	建設局道路部放置車両対策課
(従)	12 放置自転車対策（緊急雇用）	27,194	27,194	現状のまま継続等	建設局道路部放置車両対策課

合計	4,362,683	3,798,111		
うち、主たる事業の合計 (従たる事業の合計)	3,733,239 (629,444)	3,115,621 (682,490)		

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含む

施策名	1341	歩く魅力のあるまちづくり
-----	------	--------------

指標名	歩道の整備延長(m)	
-----	------------	--

担当課	道路環境整備課	連絡先	222-3570
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明
歩道補修及び交通安全施設整備事業の歩道整備の延長

2 指標の意味
だれもが安全で安心して活動し社会参加できるよう、安全で快適に歩けるバリアフリーな歩行空間の整備が進んでいるかを示す指標

3 算出方法・出典等
歩道補修及び交通安全施設整備事業の歩道整備の延長

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	17年度	18年度		数値	根拠	達成度
数値	870	1370	500m減	2984	過去5年間の最高値	45.9%

全国順位	中長期目標			
	数値	目標年次	達成度	根拠
数値	-	-	-	-

備考
地元、警察協議に時間を要したことによる繰越路線増

5 評価基準
最新の数値が
a: 過去5年間の最高値以上
b: 過去5年間の最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間
c: 過去5年間の上中間と平均値の間
d: 過去5年間の平均値と下中間（平均値と最低値）の間
e: 過去5年間の下中間以下

6 基準説明
事業費は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較する必要があるため、過去5年間の数値を基に、過去5年間の最高値以上をa、平均値以上をcとし、最低値も含めた按分で基準を設定した。
最高値 2984(平成15年度)
平均値 1734
最低値 870(平成17年度)

7 評価結果

17	18	19
e	e	d

指標名	放置自転車の台数(台)	
-----	-------------	--

担当課	放置車両対策課	連絡先	222-3565
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明
京都市内の鉄道駅周辺における放置自転車の台数(調査実施2年ごと)

2 指標の意味
市内に放置自転車がどのくらいあるかを示す指標

3 算出方法・出典等
事業担当課において調査・集計

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	15年度	17年度		数値	根拠	達成度
数値	8391	7282	約13%減	6880	放置自転車の台数については、目標値としての設定が困難であるが、最新の減少率である18%を基に目標値を設定した。	94.5%

全国順位	中長期目標			
	数値	目標年次	達成度	根拠
数値	-	-	-	-

備考
-

5 評価基準
減少率が
a: 18%を上回る減少の場合
b: 9~18%の減少
c: 0~9%の減少
d: 0~9%の増加
e: 9%以上の増加

6 基準説明
放置台数は減少に向かうことが望ましいため、過去最高の減少率である18%を超える減少をaとし、増加した場合をeと設定した。
(参考)
過去最高の減少は平成11年度から平成13年度への減少率17.5%

7 評価結果

17	18	19
b	b	b

施策名	1341	歩く魅力のあるまちづくり
-----	------	--------------

指標名	(準) 道路のバリアフリー化計画の実施済地区数 (地区)	
-----	------------------------------	--

担当課	道路環境整備課	連絡先	222-3570
-----	---------	-----	----------

1 指標の説明

今後の面的にバリアフリー化すべき地区を選定した「京都市バリアフリー全体構想」に基づく14の重点整備地区での道路特定事業計画が策定された地区数

2 指標の意味

幅の広い歩道の整備や、段差や傾斜・勾配を解消し、すべての人々が安全で快適に歩けるバリアフリーな歩行空間の整備に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

計画地区数：「京都市バリアフリー全体構想」で策定された14の重点整備地区

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	17年度	18年度		数値	根拠	達成度
数値	6	8	2地区増	2地区増	14か所の地区について20年度までに2地区ずつ策定	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	—	14	20年度	57.1%	「京都市バリアフリー全体構想」で選定された重点整備地区数

備考	平成18年度末で合計8地区実施済
----	------------------

5 評価基準

単年度目標に対する達成度が

- a：100%以上
- b：80%以上100%未満
- c：60%以上80%未満
- d：40%以上60%未満
- e：40%未満

6 基準説明

目標達成には相当の努力を要するものの、不可能ではないため、100%以上の達成をaとし基準を設定した。

7 評価結果

17	18	19
a	a	a

指標名	バリアフリー全体構想に基づき事業を着手した旅客施設数の割合 (%)	
-----	-----------------------------------	--

担当課	交通政策室	連絡先	222-3483
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

平成14年に策定された「京都市交通バリアフリー全体構想」で選定した14の重点整備地区及び重点整備地区選定の対象となった地区において、バリアフリー化が必要とされる旅客施設のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手した施設の割合。

2 指標の意味

すべての人にやさしい駅として、バリアフリー化される施設整備の進捗状況を示す指標。

3 算出方法・出典等

地区移動円滑化基本構想策定着手施設数÷対象旅客施設数×100

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	17年度	18年度		数値	根拠	達成度
数値	36.1	44.7	8.6ポイント増	44.7	対象となる旅客施設(47)のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手する旅客施設(21)の割合	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	—	53.2	22年	84.0%	対象となる旅客施設(47)のうち、地区移動円滑化基本構想策定に着手する旅客施設(25)の割合

備考	整備対象地区数 14地区
----	--------------

5 評価基準

- 減少率が
- a：18%を上回る減少の場合
 - b：9～18%の減少
 - c：0～9%の減少
 - d：0～9%の増加
 - e：9%以上の増加

6 基準説明

放置台数は減少に向かうことが望ましいため、過去最高の減少率である18%を超える減少をaとし、増加した場合をeと設定した。
(参考)
過去最高の減少は平成11年度から平成13年度への減少率17.5%

7 評価結果

17	18	19
b	c	b

施策名	1341	歩く魅力のあるまちづくり
-----	------	--------------

指標名	景観重要建造物件数（件）
-----	--------------

担当課	景観政策課	連絡先	222-3397
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

京町家をはじめとする地域の景観のシンボリックな役割を果たしている建築物等の数

2 指標の意味

地域の景観の維持及び向上に資する建物の状況を示す指標

3 算出方法・出典等

建造物の総合計
出典：事業担当課調査

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	17年度	18年度		数値	根拠	達成度
数値	3	20	17件増加	20	中長期目標を達成するための単年度増加件数（17件）	100.0%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	全国1位	108	平成23年	18.5%	歴史的意匠建造物件数

5 評価基準

最新の増加数が
a：過去の最高値以上
b：過去の最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間
c：過去の上中間と平均値の間
d：過去の平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間
e：過去の下中間以下

6 基準説明

景観上重要な建造物であり、保全のための規制及び支援施策の対象となる建造物の件数の増減は、景観施策の効果を反映することとなるため、前年度からの増加数と過去の増加数を比較した基準を設定した。

7 評価結果

-	-	a